

企画展に併せて、肖像や静物などを精緻に描いた新潟市西蒲区出身の洋画家・三富與一[1889～1968 年]を特集します。

三富は、新潟県庁勤務を経て画家を志し、1916 年 27 歳で上京。太平洋画会で洋画を学びました。1920 年の帰郷後は、弥彦、三条、長岡などの新潟県内、晩年には再び東京に拠点を移して、画家として活躍しました。実物を見て描くことにこだわり、遠方から肖像画の依頼を受けた際は現地で滞在制作したほか、好んで画題としためじろ みみずく目白、木菟、文鳥などは自宅で飼育していました。「三富の鯉」と称され評価の高かった錦鯉は、新潟県旧北魚沼郡川口町[現・長岡市]に通って取材したといえます。

本展では、錦鯉や金魚、季節の花々、裸婦、身近な風景などを生き活きと描いた、当館所蔵の全 10 点をご紹介します。

■ 出品リスト

	作品名	制作年	技法	サイズ (cm)	収集経緯
1	(裸婦)	1951 年	油彩、キャンバス	63.2×51.3	2019 年度管理換
2	岩室の秋	1952 年	油彩、キャンバス	45.0×52.0	2019 年度管理換
3	ばら	1954 年	油彩、キャンバス	31.5×40.8	2014 年度管理換
4	きく	1954 年	油彩、ボード	36.8×43.8	2019 年度管理換
5	雁来紅	1957 年	油彩、キャンバス	56.0×68.0	2019 年度管理換
6	山百合	1959 年	油彩、キャンバス	51.3×63.6	2019 年度管理換
7	苺	1959 年	油彩、ボード	30.9×39.8	2019 年度管理換
8	(果物とナイフ)	1959 年頃	油彩、キャンバス	45.4×53.0	2019 年度管理換
9	五月の鯉	1968 年	油彩、キャンバス	44.5×52.0	2019 年度管理換
10	金魚	制作年不詳	油彩、キャンバス	37.5×45.0	2019 年度管理換

■略年譜

参考文献：山上健著『樋曾（旧岩室村）が生んだ写実画家 三富興一』2007年

1889	明治 22	0 歳	・1 月 5 日、旧西蒲原郡岩室村大字樋曾（現在の新潟市西蒲区樋曾）に、大工の三富竹蔵とタカの長男として生まれる。
1903	明治 36	14 歳	・3 月、峰岡尋常高等小学校高等科を卒業。 ・その後、横須賀の海軍工廠に就職。昼間は工廠造船部の製図書き、夜は中学校夜間部に通う。
1912	明治 45 大正元年	23 歳	・新潟県庁内務部学務課学務係に採用され、約 4 年間勤務。この間、趣味で描いた知事の肖像デッサンを見た上司や同僚に勧められ、画家を志す。
1916	大正 5	27 歳	・「新潟県秀才教育貸費規定制度」を利用して、上京。 ・横須賀の叔母シメ宅に暮らしながら、1920（大正 9）年までの 4 年間、都内の太平洋画会で洋画を学ぶ。
1920	大正 9	31 歳	・新潟に帰郷。小山杉と結婚。興一、杉、杉の母クニの 3 人で弥彦に暮らし始める。 ・6 月、長女・京子が生まれる。
1921	大正 10	32 歳	・この頃、郡内の小学校に掲げる「乃木大将像」を多数手掛けて評判となる。
1924	大正 13	35 歳	・この頃、長岡市殿町に転居（家主：菓子製造業の唐津屋）。
1925	大正 14	36 歳	・6 月、長男・雅人が生まれる。
1926	大正 15 昭和元年	37 歳	・長岡市旭町一丁目に転居（家主：渡長建設）し、1945（昭和 20）年まで暮らす。その間、県内や東京、京都、名古屋からも肖像画の注文を多数請け、各地で滞在制作を行った。また、自宅で目白、木菟、文鳥などを飼育し、画題とした。錦鯉を本格的に描き出したのもこの頃。
1928	昭和 3	39 歳	・次男、養之助が生まれる。
1936	昭和 11	47 歳	・2 月 10 日、父・竹蔵が死去。雪のため汽車が止まり、立ち合いは叶わなかった。
1945	昭和 20	56 歳	・8 月 1 日、長岡大空襲の際、旭町の家屋が焼失。一家で、旧三島郡深才村大字才津（現在の長岡市）の小笠原家に 5 日間疎開。 ・8 月 7 日、樋曾の実家に転居。母・タカ、妹トシも同居。
1946	昭和 21	57 歳	・10 月 14 日、母・タカが死去。
1949	昭和 24	60 歳	・この頃、単身で三条へ転居。「会六旅館」3 号室を「翠光亭」と名付け、自身を「翠光亭主人」と称する。ここを拠点に肖像画、鯉、金魚、静物などを描いた。
1952	昭和 27	63 歳	・この頃、単身上京。 ・1967（昭和 42）年に帰郷するまでの期間、銭湯業で成功していた都内在住の新潟県出身者から肖像画の依頼を多数請け負う。
1953	昭和 28	64 歳	・1 月 3 日～翌年 11 月 22 日、「三喜苑ホテル」（渋谷区桜ヶ丘）を拠点に制作。
1954	昭和 29	65 歳	・11 月 23 日～1956（昭和 31）年、木下重男邸別館（渋谷区八幡通り）を拠点に制作。
1956	昭和 31	67 歳	・秋頃～1967（昭和 42）年、松田邸（目黒区三田）を拠点に制作。
1967	昭和 42	78 歳	・9 月、樋曾に戻る。
1968	昭和 43	79 歳	・8 月 31 日、老衰にて死去。
1990	平成 2		「郷土の鬼才 三富興一遺作展」 会期：11 月 10 日～25 日、主催・会場：岩室村公民館、50 点出品
1995	平成 7		「蒲原の鬼才 三富興一回顧展」 主催：岩室村公民館、会場：東北電力ふれあいの広場ルミナス